

国保診療所 高橋 壯之祐 先生に感謝 ～ 17 年間の地域医療の維持 正子夫人と共に ～



6 月 30 日で、町立国保診療所の高橋^{たかはし}壯之祐^{そうのすけ}医師（86 歳）が退職されました。平成 17 年 5 月に着任された当時の国診特別会計は、過去からの累積赤字約 7 億 8 千万円を抱え、町の財政再建のための医療行政改革や国保診療所存続への不安など、極めて厳しい経営環境の中で、17 年間にわたり、本町の地域医療の維持確保にご尽力いただきました。この度、自身の病気治療に専念されるため、勇退されることになりました。

高橋医師が着任された 1 年後の平成 18 年からは、国保診療所が入院休止となり、更に 1 年後の平成 19 年には、道立余別診療所が閉所されるなど、町内の医療体制が激変する情勢下で、国保診療所の職員とともに苦労を分かち合い、へき地医療を守る医師の使命に全力を傾けられた多くのご労苦とそれを支え続けられた^{まさこ}正子夫人に町をあげて感謝したいと思います。



6 月 24 日、積丹町から譲渡を受けた「岬の湯しやこたん」（野塚町）の開業を記念し、「開業記念交流会」（主催・株式会社 SHAKOTAN GO（五十嵐慎一郎代表取締役）が催され、松井町長・岩本議長・町議会議員のほか、地域住民約 50 名が参加しました。

「地域」と共に「！」 岬の湯しやこたん 開業記念交流会

交流会では、積丹 GIN の試飲や従業員による楽器演奏が行われたほか、毎年、野塚稲荷神社の例大祭で奉納されている「野塚南部神楽」を野塚小学校 4 年の佐藤 灯平君と港介君の双子の兄弟が父の浩^{ひろし}さんらと共に披露し、会場では大きな歓声と拍手がわいていました。

五十嵐代表取締役は「岬の湯しやこたんの機能ではなく、地域住民の皆さんの交流の場にしたい。地域と力を合わせて積丹町を国内に



▲五十嵐代表取締役



決済のイメージ図



「旅先納税」って何？
旅行や出張等で訪れた地域で、その自治体にふるさと納税の寄附をすると、現地ですぐに使える電子商品券をもらえるという仕組みです。お土産のほか、飲食、宿泊、アクティビティ等の決済（支払）に利用できます。寄附の方法は「積丹町旅

6月15日
スタート！

「旅先納税」新たなふるさと納税の形

電子商品券取扱店募集中！

積丹町はどうして

「旅先納税」を始めたの？

従来の制度は、直接寄附先の自治体を訪れなくても

先納税特設サイトにアクセスし寄附すると、寄附金額に応じてスマートフォンに電子商品券が贈られます。利用できる町内取扱店での会計の際に、決済（支払）する金額をお店側に提示し、そのスマートフォン画面に電子スタンプを押してもらえば、決済（支払）完了です。

当町で6月15日に運用開始した旅先納税システムは、後志管内では倶知安町に次いで2件目、全国でも8件目の導入となります。

旅先納税ロゴマーク



インターネット等から寄附できることから、本来の伝統や自然に根ざした地域の魅力が寄附者に伝わりにくくという課題がありました。これらを克服するため、直接当町の魅力を知り寄附をしてくださった方に対し、地域ならではの商品・サービスへの支払いに利用できる電子商品券を返礼品とする新システムを導入しました。

町では、新規寄附者の獲得のほか、このシステムは町内事業者への還元を可能とするため、地域経済の活性化にも繋がることを期待しています。



▲積丹町旅先納税特設サイト
(URL: <https://shakotan-traveltax.jp/>)

電子商品券取扱店募集中！ 事業者負担は不要

町では、旅先納税システムを円滑かつ効果的に運用していくため、電子商品券取扱店を募集しています。初期費用や換金手数料など、事業者負担は一切ありません。町内に事業所または店舗を有する事業者の皆様には、旅先納税の趣旨にご賛同いただき、ぜひお申し込みください。

なお、申込書は役場企画課又は積丹町旅先納税特設サイトからダウンロードして、必要事項を記入して申し込みをお願いします。

【問い合わせ先】役場企画課

TEL 44-2114



▲積丹町旅先納税特設
サイト二次元コード

北後志消防組合積丹支署

— 消防ニュース —

救助訓練を実施

7月4日に「伝達講習」と「新規導入資機材取扱訓練」を実施しました。眞酒谷勇喜隊員が4月に北海道消防学校救助科で約1ヶ月間学んだ技術を活かして、「男性1名が3階のベランダから2階屋上に転落し、骨盤を骨折した疑いがあり動けない」という想定で、高所からの救出方法を同支署隊員に伝達しました。



資機材取扱訓練は、B & G防災拠点整備事業で導入された、コンビハンマードリル、ハツリ機、鉄筋カッター、ポータブルウインチ等の取扱方法を確認し、これら新機能の防災救助資機材の導入により、鉄筋の切断やコンクリートの破壊が可能となり、これまで以上に救助の方法が拡充されました。これからも継続して訓練を行い、隊員の現場即応能力の向上と町民が安心して暮らせる町づくりへの貢献に努力してまいります。

地域おこし協力隊 レポート

Vol.2

4月1日付けで9名の『地域おこし協力隊』が委嘱され、町内の団体や事業所で活躍しています。各隊員の活動内容や今後の目標などを広報しゃこたんで連載しています。



今月の地域おこし協力隊

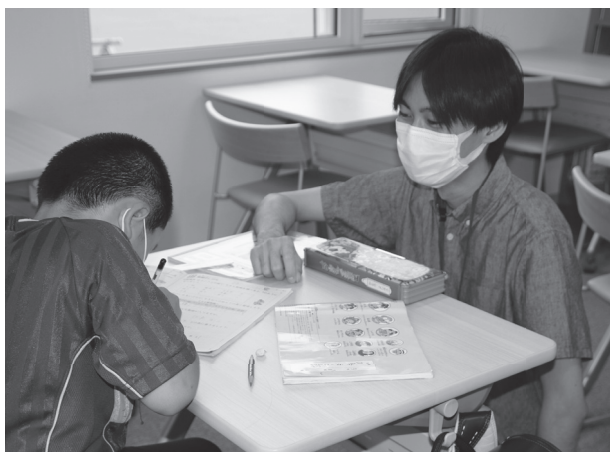
富樫 慧凛央 さん

【教育委員会 家庭教育支援員】

「B & G 海洋センター」と「子ども第三の居場所」の家庭教育支援員として働いている、富樫 慧凛央 さんです。「地域おこし協力隊レポート」の第2弾として活動内容をご紹介します。

「B & G サポートゼミナール」は、中学生を対象に、学習習慣と志望校を目指す学力向上を目的に、海洋センターで開催されている事業で、「自分で考え自分で決める力」や「自力で成長していく力」を育てることを目標としています。週3回、午後6時から9時まで行っており、生徒たちとともに楽しみ、学ぶ学習をサポートしています。

また、「子ども第三の居場所」でマネージャーを務めており、小学1年生から6年生までの児童を相手に、学習支援として宿題を教え、運動支援として体育館や公園で遊ぶなど、楽しく働いています。



今後は、地元の職業体験やプログラミング、アンケート技法の授業など、勉強だけでなく活動を行いたいと考えています。夢をかなえるための道筋だけではなく、夢を見つけたための試行錯誤を子どもたちと一緒にやっていきたいと思っています。平日の午後6時以降は海洋センターにいますので、ぜひ声をかけてください。今後ともよろしく願います！